

HOT TOPIC



山口大学共育ワークショップ2018『みんなで教育(共育)について語ろう! ~大学と高等学校による授業協奏曲~』を開催!

2018年3月15日(木)、共育ワークショップ2018「みんなで教育(共育)について語ろう! ~大学と高等学校による授業協奏曲~」を本学共通教育棟(吉田キャンパス)にて開催し、学内外から90名(学内38名(教職員27名、大学生11名)、学外52名(教職員31名、大学生6名、高校生14名、高専生1名))が参加しました。共育ワークショップは、大学教育センターが主催し、大学の教育(共育)について、学生、教職員と一緒に、様々な観点から語りあい、考えてみるというもので、2013年度から始まり、5年目となります。今回は、2014年12月公表の中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」を受け、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革が進み、2016年3月「高大接続システム改革会議「最終報告」」のほか、学習指導要領が大きく変わろうとしている中で、生徒や学生の確かな学力を育成することを目的に、「主体的・対話的で深い学び」を促すアクティブ・ラーニングの視点による授業改善が学校種を超えた共通テーマとなっており、大学関係者と学校関係者が一緒になって、教育について考える場を提供しました。なお、本ワークショップは、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)中間成果交流会として開催しました。

はじめに、岡正朗学長より開会挨拶があり、近年の高大接続改革の重要性に言及しながら、大学生や高校生を交えて授業のあり方等について対話する今回のワークショップへの期待が述べられました。

1限目：基調講演では、認定NPO法人カタリバ代表理事 今村久美氏より「生徒・学生が輝く『学び』とは」と題して、今村氏自身の高校生時代や大学生時代の経験を紹介しながら、高校生と大学生のナナメの関係を活かした対話の場「カタリ場」を提案した経緯などを話し、現在の若者への期待や可能性についてメッセージを送りました。山口県内で実施している「カタリ場」に関わっている山口県立大学生との本音トークや、「カタリ場」を受講した山口県立西京高等学校の高校生からの感想など、盛りだくさん内容が提供されました。

2限目：大学×高等学校による模擬授業では、山口大学、徳山大学、山口県立西京高等学校、野田学園高等学校の教員から、それぞれ趣向を凝らしたアクティブ・ラーニング型授業が提供されました。参加者は事前に希望した授業を各教室に分かれて受講しました。山口大学 藤井克彦准教授の模擬授業では、微生物バイオテクノロジーの学術的概念や現実社会での微生物の生態など、最先端の研究内容を学びました。徳山大学 なかはらかぜ教授の模擬授業では、4コマ漫画を作図するというワークが課され、ストーリー展開を考えながら、自らの考えをイラスト化するという授業を体感しました。山口県立西京高等学校 和田将太先生の模擬授業では、授業中は英語のみによるグループ対話・質疑応答に終始し、子供のときの自らの経験などを英語で表現する授業を体感しました。野田学園高等学校 河本順康先生の模擬授業では、三角形の重心・内心・外心・垂心について、正三角形、二等辺三角形、直角三角形の3グループに分かれ、ジグソー法を活用した相互学習を体感しました。

3限目：ダイアログ・セッションでは、山口大学大学教育機構大学教育センター 林透准教授のファシリテーションのもと、11グループ(1グループ5~6名)に分かれ、模擬授業を受けた感想や気づきを話し合いながら、「大学の授業への期待や要望」「高等学校の授業への期待や要望」についてリストアップしました。最後に、「大学の授業への期待や要望」「高等学校の授業への期待や要望」のうち、最も大事だと思ったアイデアをスケッチブックに書き出し、全体発表を行いました。各グループから高校生または大学生が代表して積極的に発表する姿が印象的でした。「考える楽しみを感じられる授業」「将来やりたいことが見つかるような興味を持てる授業」「色々な価値観や意見が知りたい、柔軟に考えたい」「答えのない活動をする中で自分の考えを自由に共有できる空気づくりが大切」「アウトプットする機会が欲しい」「(生徒と教師が、)授業と一緒に作る」などの提案があり、今後の大学や高等学校の授業充実に役立てることとなりました。

最後に、福田隆真副学長より閉会挨拶があり、今後もこのような大学と高等学校の交流の機会を作っていきたいとの言葉が述べられました。



山口大学・大学教育再生加速プログラム

YU-AP News

Yamaguchi University Acceleration Program News

Vol.5
2019年3月号

YU-AP News Vol.5

Yamaguchi University Acceleration Program



教育は加速する。

Contents

- 巻頭言 …… 2
- AP事業実績の概要 …… 2
- テーマⅠの実績 …… 4
- テーマⅡの実績 …… 5
- イベント紹介 …… 6
- 編集後記 …… 7
- HOT TOPIC …… 8



巻頭言



山口大学 副学長
福田 隆眞

山口大学では、文部科学省大学教育再生加速プログラムの採択(2014年度)を受け、積極的に大学教育改革を進めてまいりました。テーマI「アクティブ・ラーニング」、テーマII「学修成果の可視化」の取り組みを通して、①多様な学生すべてに対する能力育成を最大限支援する、②本学の教育システムを学生および社会に質保証できる、③本事業成果を積極的に情報発信し、我が国の高等教育全体の発展に貢献することを目指しており着実に成果を挙げています。

これらの成果が高く評価され、昨年度の中間評価では最高の「S評価」を受けました。

2015年度から導入したALポイント認定制度では、当該授業でどの程度アクティブ・ラーニングの活動をしているのか、シラバスに明示されることとなりました。昨年度までに、学士課程教育全体でのアクティブ・ラーニング型授業の割合がAP事業の最終目標である70%を超える広がりを見せています。

また、ALポイントや学生の授業満足度をもとにアクティブ・ラーニング(AL)ベストティーチャー表彰制度も3年目を迎え、今年度は5科目・14名を選定し表彰を行いました。また、昨年度に引き続き、ALベストティーチャー表彰を受けた教員による模擬授業を通じたFD・SDワークショップを開催し、大好評となりました。ALベストティーチャーによる授業実践を広く共有することで、全学的な教育改善の議論や組織文化の醸成に資することを目指しています。

さらに、YU CoB CuS(Yamaguchi University Competency-Based Curricular System)、学修到達度調査、学修行動調査といった複数の指標を用いた直接評価・間接評価統合型の学修成果可視化モデルの構築に取り組んでいます。そのモデルの一部はすでに修学支援システムに取り入れられており、学生や教員が一目で今の到達度状況を把握できるような仕組みになっています。昨年度からは、学生に対する学修指導を強化するため、教職員を対象としたラーニング・アドバイザー養成講座の実施にも取り組み、学生の成長を支援する体制を一層充実していきたいと思っています。

山口大学・大学教育再生加速プログラムは、事業5年目となり、いよいよ本事業も終盤を迎えつつあります。事業成果を積極的に情報発信するため、「YU-AP News Vol.5」を発刊いたします。今後とも、皆様からの深甚なるご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

AP事業 実績の概要



【中間評価で
最高の
「S評価」！】

文部科学省・大学教育再生加速プログラム(AP)中間評価において、最高の「S評価」を受けました。

山口大学では、2014年度に文部科学省・大学教育再生加速プログラム(テーマI・II複合型)の採択を受け、テーマI「アクティブ・ラーニング」、テーマII「学修成果の可視化」の取り組みを通して、①多様な学生すべてに対する能力育成を最大限支援する、②本学の教育システムを学生および社会に質保証できる、③本事業成果を積極的に情報発信し、我が国の高等教育全体の発展に貢献することを目指し、着実に成果を挙げてまいりました。

特に、2015年度から導入したALポイント認定制度では、各授業シラバスにおいてアクティブ・ラーニングをどの程度行っているかという割合を明示し、2017年度には、アクティブ・ラーニング型授業の割合が学士課程教育全体で70%を超える広がりを見せています。

「S評価」を受けたのは、全体では77件中14件、テーマI・II複合型では21件中4件という狭き門でした。今回、非常に高い評価をいただいたことを励みに、更なる事業推進とともに、国内外に向けた成果発信を行っていききたいと思います。

【総括評価】 S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
【コメント】 ＜優れている点＞ ・従来から進められている教育改革の実績をベースにした本事業の推進により、大学全体の教育改革が着実に進められている。特に、「山口大学教育理念」の整理、「山口大学生に期待される汎用的能力」の明確化は大学教育改革の取組として評価できる。また、国際総合科学部に導入している新カリキュラムシステムは、学生の「学びの好循環」を進める上でその成果が期待され、評価できる。 ・アクティブ・ラーニング(AL)ポイントのシラバスへの入力率の伸び、全学的展開、新修学支援システムへの学生主導型学生支援機能の追加は、本事業の趣旨に適切に対応した取組と言える。また、FD・SDワークショップの学外公開、高校等教員の参加、アンケート実施を通してALの更なる改善を図っていることは評価できる。 ・YU-AP事業推進委員会を軸とし、テーマごとにタスクフォースを設置した実施体制により、本事業が着実に進められていることは評価できる。 ・各学部執行部との懇談会は、全学的な事業運営に有効な取組となっており、評価できる。 ・内部評価、外部評価の他、教職員、学生参加の「共有ワークショップ」の実施、外部アドバイザーの委嘱など、PDCAサイクルの体制が整備されていることは評価できる。 ・事業実施環境の整備、専門人材の配置等から、今後の事業継続が見込まれ、評価できる。 ・事業成果については、ジョイントフォーラムやYU-AP国際シンポジウムの開催等を通して積極的に公開されているほか、他大学からの訪問調査への対応等の波及活動が進められている。さらに、ALポイント、共通ルーブリック、学生参加型のFD、APアドバイザーなど、先駆的モデルの波及は評価できる。

【YU-AP事業における
三つのエッジと
社会的インパクト】

「①ALポイント認定制度を通じたアクティブ・ラーニングの組織的推進」では、①シラバスにおける学修行動の可視化を通じたALポイント認定制度の全学導入、②AL推進チームによるFD専門集団(FDコーディネータ)の形成を通じた教育実践への貢献、③教員にインセンティブを与えるALベストティーチャー表彰制度の制度設計・実施という循環システムを整備している点が優れており、特に、シラバス上において各授業科目におけるアクティブ・ラーニングの割合を可視化したALポイント認定制度の導入は先駆的です。

「②共通ルーブリック開発」では、課題探究型初年次教育のAL型科目「山口と世界」の共通ルーブリックを10数名の授業担当教員で1年間をかけて作成し、授業実践や成績評価に活かす取組を行い、当該取組で得られた知見をルーブリックハンドブックとしてまとめました。ルーブリックの組織的活用の実践事例は、先駆的取組として、各機関の参考となっています。

「③学生協働を活かした事業推進」では、AP事業スタッフとして学生を配置し、学生の声を活かした教育改善・学修支援充実に着手し、他機関の参考となっている。学修者中心の考え方の広がり、各大学における学生協働を取り入れた教育・学修改善(学生参画型FD、学生による授業観察、ピアサポートなどの導入・充実に結びつき、AP採択校では、学生協働による教育改善や事業運営の取組が共通的に見られるようになっています。



【高大連携の取組進む！】

2017年度からは、アクティブ・ラーニング型授業やルーブリック活用による学修評価をテーマに、高等学校との情報交流や連携に大きな進展が見られ、2018年3月に開催したAP事業成果交流会「共有ワークショップ2018」を高等学校と連携する形で成功に納めているほか、山口県内高等学校からの教員研修講師依頼や山口県立下関西高等学校のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)採択に貢献しています。

【「チームAP」に
参画・貢献・
成果発信！】

2018年度において、テーマI・II複合型幹事校である京都光華女子大学短期大学部と連携し、「チームAP」を盛り上げる各種企画に参画・貢献するとともに、本学の取組を積極的に成果発信してきました。

まず、9月10日(月)～11日(火)の2日間、広島県神石高原町・神石高原ホテルで開催された「チームAP合宿」では、チームAP合宿準備委員会に、大学教育機構大学教育センター 林透准教授が参画し、1日目の基調講演&学長対談「2020年以降の大学教育の行方」を企画するとともに、当日のファシリテーター役を務めました。登壇者として、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)や文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP)などに採択され、教育改革を断行する金沢大学 山崎光悦学長、芝浦工業大学 村上雅人学長を招へい出来たことが大きな成果でした。このほか、2日目の分科会では、山口大学が世話役となって「ステークホルダー協働による大学教育のカタチ～これからの大学教育、どのカードを使ってカタチにしていきますか?～」を企画し、宇都宮大学、関西国際大学、阿南工業高等専門学校、長崎短期大学のAP選定校に加え、地元の広島県立油木高等学校との連携により、ショートトークによる話題提供とゲーム方式のミニワークを繰り広げました。

次に、11月24日(土)には、テーマI及びテーマI・II複合型共同開催シンポジウムにおいて、大学教育機構大学教育センター 林透准教授が「総合的な大学教育改革のためのエンジン～山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)の使命～」と題し成果発表を行いました。同日には、「テーマI・II複合型」選定校意見交換会が開催されました。

今後も、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)では、AP選定校同士の交流を進め、意見交換や成果発信を積極的に取り組んでいきます。



テーマIの実績

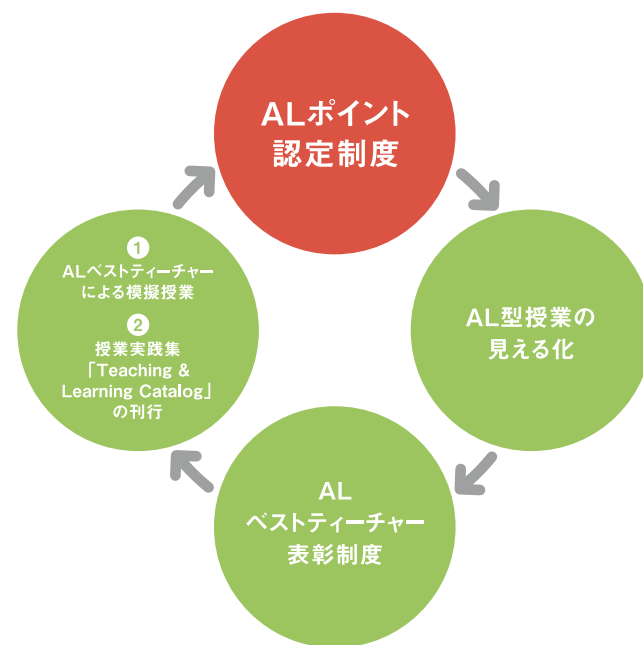
ALに関する指標による経年変化とALベストティーチャーによるPDCA

テーマI(アクティブ・ラーニング)では、ALポイント認定制度が定着し、**「①ALポイントのシラバス入力」⇒「②AL型授業実践」⇒「③ALベストティーチャー表彰」⇒「④AL型授業のグッドプラクティス普及(模擬授業型FD・SDワークショップ、授業実践集)」**といったAL推進の好循環サイクルを確立しています。

2017年度において、AP事業における必須指標である「アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合」は最終目標値70%に対して「72.4%」、同じく必須指標である「アクティブ・ラーニングを行う専任教員数」は最終目標値68.4%に対して「83.0%」と、共通教育と専門教育の垣根を超えて、学士課程教育全体に広がり、最終目標値を既に上回っています。

ALベストティーチャーの優れた授業実践について、AL型授業実践集「Teaching & Learning Catalog」の記事掲載に留まらず、実際の授業内容を体感してもらうことがより効果的と考え、模擬授業型FD・SDワークショップを企画実施したところ、学内の若手教員から好評であり、AL推進の好循環が順調に進展しています。

アクティブ・ラーニング型授業の“好循環”



第3回ALベストティーチャー表彰決まる!

共通教育におけるアクティブ・ラーニングの授業実践に顕著な成果をあげた教員を表彰する「ALベストティーチャー」の第3回受賞者14名が選出されました。ALベストティーチャー表彰制度は、本学が2014年度に採択された文部科学省・大学教育再生加速プログラム(AP)の一環として、2016年度に制定された制度で、シラバスのALポイント、学生授業評価、成績評価分布などを指標に審査し、受賞者を決定しています。その第3回受賞者の表彰式が2019年1月8日(火)の部局長会議の冒頭で行われました。

表彰式では、岡正朗学長より、「ALの重要性を益々感じる。座学以外の経験の少ない学生のために、これからも現場での工夫を続けていただき、フィードバックをもらうことを大切にしたい。」との言葉が贈られ、出席した9名の教員に1人ずつ表彰状が手渡されました。

なお、表彰式に先立ち、岡学長と表彰者との間で懇談会が開催されました。懇談では、近年の学生の授業を受ける態度の変化に応じた、実際に生き物に触れる経験、地域でのフィールド学習や学校現場での実践を通じた活動の工夫が共有されました。さらに、反転授業の工夫と、それに伴う教材作成の重要性や教室設備についてなど、具体的な現場の声も含め、教育活動の改善に向けて様々な視点から意見交換がなされました。



区分	授業科目名	所属	職名	氏名
教養コア系列	キャリア教育	教育学部	教授	霜川 正幸
英語系列	英語会話IIb		非常勤講師	GLASSIC BRIAN JEFFREY
一般教養系列	文化の継承と想像 1-2	大学教育機構	准教授	林 透
		創成科学研究科	准教授	山浦 晴男
	生物学実験	共同獣医学部	教授	佐藤 晃一
			教授	木村 透
専門基礎系列 (理系基礎分野)	生物学実験	共同獣医学部	准教授	大渡 剛
			准教授	柳田 哲矢
			准教授	角川 博哉
			助教	日暮 泰男
専門基礎系列 (日本語分野ほか)	日本語IA (文法)	大学教育機構	教授	中満 朋子
			助教	三宅 在子
			助教	渡邊 健太



【ALポイント】 Active Learning Point

AL(アクティブ・ラーニング)ポイントとは、ALの6つの形態「グループワーク」「ディスカッション・ディベート」「フィールドワーク(実験・実習、演習を含む)」「プレゼンテーション」「振り返り」「宿題」に設定されているAL度から算出されます。各科目におけるALポイントをシラバスに明示し、履修の参考にする事で、アクティブ・ラーニングを通じた学生の主体的な学びを促進することを趣旨としています。

テーマIIの実績

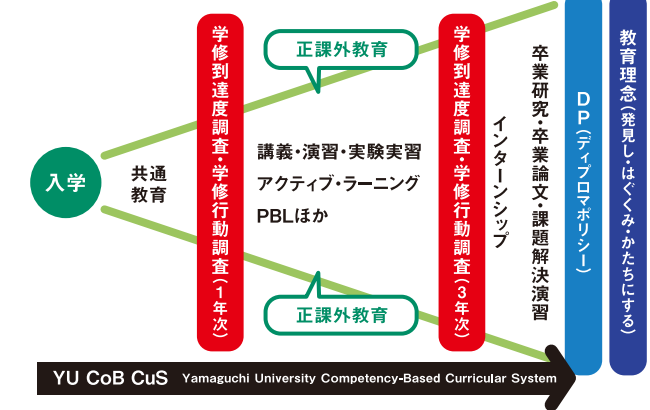
学修成果アセスメントの枠組

本学では、「汎用的能力をアセスメントする学修到達度調査」や「DP達成度をアセスメントするYU CoB CuS」などの学修成果アセスメントに関する取組を進めており、右図のとおり、学士課程教育における質保証の概念図を整理しています。2016年度には、修学支援システムを改訂し、自己主導型学修総合電子システム(eYUSDL)を導入し、YU-AP事業を進める学修到達度調査結果やYU CoB CuSによるDP達成度をレーダーチャートにより可視化する仕組みを整備しました。

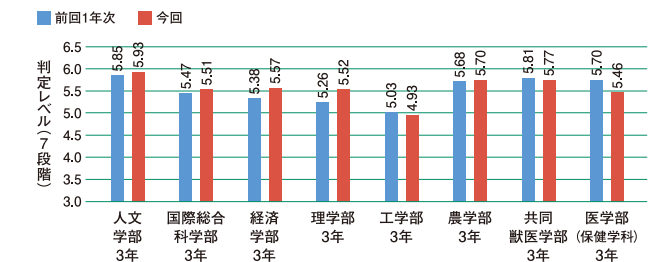
右のグラフは、学修到達度調査(PROGテスト)の経年変化であり、2018年度の学部3年生(2016年度の学部1年生)の結果の中から、リテラシー総合評価とコンピテンシー総合評価の平均値がどのくらい伸びたかを学部別に集計したものです(評価値の最小値は1、最大値は7、全国の大学平均は3~4程度、教育学部・医学部医学科は当該データがないため対象外です)。

今後は、可視化された学修成果を学生が自らの学修に活かしていくのか、教員が自らの学修指導に活かしていくのかが問われます。入口(入学)から出口(卒業)までの質の伴った大学教育を実現する視点から、学生の学修プロセスを重視し、学修ポートフォリオの充実や各種学修データを活用したIR分析等を実質化し、FD・SD研修会等で情報共有を図っていく必要があります。

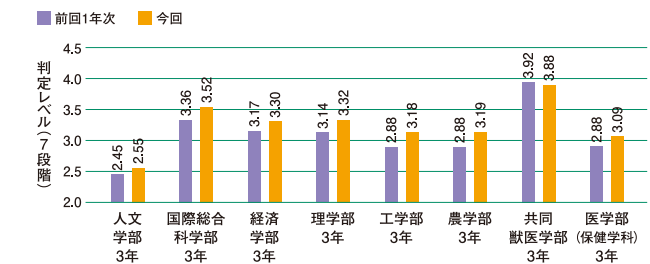
山口大学・学士課程教育の質保証概念図



「リテラシー総合評価」の経年変化



「コンピテンシー総合評価」の経年変化



SLP(スチューデント・リーダー・プログラム)による学修支援

ALを前提とした正課外教育プログラムとして、2014年度から始めたSLPは、【ラーニング・スキル開発】【キャリア開発】【学生企画】の3区分で、様々なテーマを取り上げながら、これまで20回以上開催されてきました。

2018年度は、【ラーニング・スキル開発】計4回、【キャリア開発】計1回開催され、全体で150名以上の学生が参加し、満足度の高い評価を得ました。

【ラーニング・スキル開発】では、学生が主体的かつ能動的に学ぶための学びの手法を習得することを目的に、ライティングやプレゼンテーションに関する基礎スキルをレクチャーし、ミニワークを行いました。特に、ライティングスキル養成講座は、2016年度に実施した「初年次学生の学習意識調査」の結果において、学生から要望が強かったことを踏まえ企画しました。

【キャリア開発】では、学生のキャリア意識を醸成することを目的として、大学職員の仕事の魅力について、山口大学出身の職員が話題提供しました。このメニューは毎年好評で、今や定番となっています。



第9・10回 SLP【ラーニング・スキル開発】7月開催
「ライティング入門講座 ~レポートの書き方の基本的な作法とコツをつかめ!~」
(学生・教職員73名参加)

第11・12回 SLP【ラーニング・スキル開発】10・11月開催
「プレゼンテーション入門講座 ~プレゼンテーションの基本的な作法とコツをつかめ!~」
(学生・教職員35名参加)

第3回 SLP【キャリア開発】5月開催
「ぶち教えちゃる! 大学職員の仕事 - 大学職員の先輩に聞いてみよう -」
(学生・教職員52名参加)

【直接評価と間接評価】 Direct Assessment & Indirect Assessment

直接評価とは、学生の知識や技能などの表出から学修成果を直接的に評価すること(何が出来るか)です。テストやレポート、卒業研究などによる評価がこれに該当します。一方、間接評価とは、学修行動や学修成果についての学生の自己報告から学修成果を間接的に評価すること(何が出来るかと思っっているか)です。学生調査などのアンケート項目などによる評価がこれに該当します。



Event

【イベント紹介】

「学生FDサミット2018春」のポスター表彰

2018年3月8日(木)・9日(金)、法政大学で開催された『学生FDサミット2018春』、ポスターセッションにおいて、大学教育センターの支援を受けて活動するYU-AP学生スタッフが作成したポスターが最優秀賞「ポスター大賞」を受賞しました。2017年度に取り組んできたYU-AP学生スタッフの活動内容が高く評価されるとともに、切り絵など

の工夫を凝らしたポスター展示の成果であり、参加学生・教員一同、大きな喜びに包まれました。

学生FDサミットとは、学生の声を教育改善や学修環境改善に活かす学生参画型のFD (Faculty Development (教育改善・学修環境改善))を行う全国各地の大学生団体が集結して意見交換や情報交流を行

う全国イベントで、年2回(春と夏)開催されています。本学からは毎年、YU-AP学生スタッフや教職員が参加しており、2017年3月には、山口大学主催で『学生FDサミット2017春』を開催し、全国から約260名の学生・教職員の参加者を集めました。



学修ポートフォリオをテーマとしたワークショップ

2018年11月22日(木)に、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)FD・SDワークショップ『学生の学びを促す学修ポートフォリオとは～今、改めて学修成果の可視化について考える～』が、学内外から計37名の参加者により、本学吉田キャンパス共通教育棟15番教室(アクティブ・ラーニング教室)にて開催されました。

冒頭、菊政 勲 山口大学大学教育機構大学教育センター長より開会挨拶があり、学修ポートフォリオの重要性が一層増しているが、先進事例紹介等を通して、学修ポートフォリオの意義や価値について改めて考えてみたいとの趣旨説明がありました。

まず、江本 理恵 岩手大学教育推進機構准教授より、「ディプロマ・ポリシー達成度の可視化と学修ポートフォリオの活用」と題して、岩手大学での先進事例について紹介があり、「アイフォリオ」と称するポートフォリオシステムを開発し、運用している状況につ

いて説明がありました。

次に、鷹岡 亮 山口大学教育学部附属教育実践総合センター教授より、「学修ポートフォリオを通じた学生の振り返りの意義と効果」と題して話題提供があり、教育学部での授業実践における省察活動の各種紹介を踏まえながら、省察における動画や写真を参照することの有用性について説明がありました。

後半の質疑応答・対話のセッションでは、林 透 山口大学大学教育機構大学教育センター准教授のファシリテーションにより、ペアワークの形式で短時間の意見交換を行いました。

今回のFD・SDワークショップでは、岩手大学 江本先生から多くの情報提供をいただき、ディプロマ・ポリシー達成度の可視化の取組を進める山口大学にとって、大変有意義な機会となりました。



大学マネジメントセミナー2018 in やまぐち

2018年12月17日(月)に、大学リーグやまぐち・山口大学主催大学マネジメントセミナー2018 in やまぐち「地方大学の魅力発信と大学間連携Part2 ～新しい時代における大学マネジメント～」を、学内外から91名(学内67名、学外24名)の参加者を集め、吉田キャンパスにて開催しました。

冒頭、岡 正朗 山口大学長より開会挨拶があり、2017年度からSD(スタッフ・ディベロップメント)の義務化に加え、大学経営における教職協働の重要性が謳われる中で、従来のSDセミナーを大学マネジメントセミナーと改称して開催する趣旨が述べられ、例年同様、所属大学を超えた大学関係者の議論や情報交流に期待が寄せられました。

基調講演では、高梨 桂治 沖縄科学技術大学院大学副学長(財務担当)より、「輝け!大学人」、各務 正 梅光学院



大学副学長(教学担当)より、「大学人としての『生きがい』『やりがい』とは」と題して講演がありました。

後半では、林 透 大学教育センター准教授の全体進行のもと、シンク・ペア・シェアという手法で、講師2名の基調講演について、まずは個人での振り返りを踏まえながら、ペアワークで対話した後、講師との質疑応答を通して全体共有を行いました。参加者からは、「知的に鍛えるとは、どのような力を身に付けさせたらいいのか」等の質問がありました。講師2名からは、単位制を担保した授業運営が基本であること、旧来のフンボルト型の大学観を脱却して新しい価値観をもって大学経営や大学教育に当たることが大切とのコメントがありました。

2017年度外部評価を活かした事業展開

本事業では、事業の進捗状況や補助金の執行状況を評価するために、事業内容に精通した大学関係者、高等学校関係者、企業関係者によって構成される「外部評価委員会」を設置しています。

特に、2015年度からは、内部評価と外部評価を連携させながら、評価体制を強化・充実しました。外部評価で受けた講評やコメントを重視し、翌年度の事業計画に最大限活用するPDCAサイクルを構築しています。具体的には、外部評価を受けた翌年度最初のYU-AP事業推進委員会において、外部評価で受けた講評やコメントに関する対応策を作成し、具体的な活動計画を立案するようになりました。このことにより、事業取組の改善・充実に積極的に取り組むことができるようになり、次回の外部評価委員

会における事業報告項目が明確化されることとなりました。外部評価を活かしたPDCAサイクルを軸とすることで、事業取組の改善点が明確化し、かつ、改善方針の方向性が具体化され、事業全体の進捗状況が一層可視化されました。

2018年3月22日(木)に開催された「2017年度外部評価委員会」では、中間評価において「S評価」を受けたことの賞賛があったほか、事業取組について緻密かつ着実に進められていると評価されたほか、AP事業で行っているFD・SDの取組の目的や位置付けの明確化、AP事業に学内外の関係者を更に巻き込んでいくこと、学修成果の可視化の取組において学部・学科との連携を更に進めてほしいとのコメントがありました。

Editorial Note

【編集後記】

山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)は、アクティブ・ラーニングと学修成果の可視化の促進、そして、教員・職員・学生が協働するFD・SDワークショップを展開しています。最近では、YU-AP推進室からクリッカーやタブレット機器、アクティブ・ラーニング教室の利用促進について発信しています。2015年度以降、授業での利用実績が継続的にあり、クリッカーやタブレット機器を活用した教員・学生双方での意思疎通を通じた授業は、まさにアクティブ・ラーニングのグッド・プラクティスであるといえるでしょう。また、学生間の意見交換を容易にする学修環境として、可動式の机・椅子が導入されているアクティブ・ラーニング教室が有効に活用されています。



今後の山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)が発信する情報やこれまでの取り組みについては、本事業ホームページにて積極的に発信されています。YU-APIに関する最新情報はホームページを是非ご覧ください。URL: <http://www.yuap.oue.yamaguchi-u.ac.jp/>

Staff

【YU-AP 事業推進スタッフ】

- 林 透 (大学教育機構大学教育センター 准教授)
- 高林 友美 (大学教育機構大学教育センター 助教(特命))
- 伊藤 千恵美 (学生支援部教育支援課 事務補佐員)
- 香川 万由子 (経済学部4年)
- 廣本 明日香 (文学部3年)
- 堀井 さやか (文学部3年)
- 今徳 凌太 (経済学部3年)
- 岡 寛範 (経済学部3年)
- 川田 海栄 (経済学部3年)
- 増田 雅也 (国際総合科学部3年)
- 原 きく乃 (文学部2年)
- 杉本 寛展 (経済学部2年)
- 大亀 洋輔 (理学部2年)
- 生島 歩 (工学部2年)
- 藤井 聖也 (工学部2年)
- 谷崎 絵美里 (農学部2年)
- 松瀬 可菜子 (農学部2年)
- 中村 優紀 (理学部1年)
- 山口 由貴 (理学部1年)

